

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 11号 (NO19)

2011年11月10日 (木) 発行

【農暦】出来るなら美しい景観には拘りたい

○7日は旧暦の立冬である。冬が実感できない気温が続いており、先週までは半袖であった。周辺の山々は紅葉の気配を余り感じられない。畑のブルーベリーの葉は綺麗な紅色に染まって来ている。ひと雨毎に寒くなるとテレビの気象予報は伝えていたが、立冬の今週は急に冷え込んで来ている。予報の通り？冬の気配である。そんな中で何度か小豆の摘み取りをした。隣には黒豆が茶褐色になってきている。先週は、軽トラック荷台の直売会に向けて薩摩芋と里芋の収穫をした。KYさんが手伝いに来てくれた。最近は農作業が負担に感じる事が多くなっていたので助かった。ギックリ腰で夏の1ヶ月の空白で荒れ放題になった畑や台風で倒された木の片付けなどの作業を続けて来たので気持ち的にも前向きになれないでいる。こんなことも負担感を大きくしているのかもしれない。黒豆、里芋、ヤーコンなどの収穫をこまめに進めねばと畑を眺めていると、畝間には草が元気に頑張っているのが見える。今年も2カ月を切ってしまった。反省も多い。

○多くの実を付けた柿の木のある景色が私は好きだ。秋の景色はこれだと思う。だがここにはあまりない。近くに柿岡の地名もあり柿の産地があるが、収穫用の柿は別物のように見える。最近では、千枚田が観光地になっているが、自然に調和して豊かに作物が育った田畑は美しい？。瑞穂の国と言われる日本の田圃の景観を絶賛する外国人は多いと云う。豊穰は収穫だけではないように思う。市民農園の雑然とした景観は美しくはない。出来たら市民農園の在り方を個別でなく集団？、小区画でなく大区画？などと勝手に思い描いたりしている。

○市民農園とは別の意味で私の畑は決して美しいとは言えない。壊された自然は美しくはない。北海道を旅した時のジャガイモ畑が美しかったのが思い出されるが、自然を壊すのではなく自然の景観を生かす形で畑が出来ればなあと思う。そんな景観の中で田舎暮らしや農作業がしたかったのだと今更



<黒柿>トラックの荷台の直売で珍しいと多くの人が買って行かれた。中味は普通の柿と同じで甘い。写真はFさんから貰った黒柿(6日)。

ながら思う。小豆の収穫の手を休め、周りを見ると、“美しい畑”とは真逆の景色が目に入って来る。ダラシナイ性格と体力の衰えも否めない。現実とのギャップに溜息も洩れる。夢は忘れず“気張らず自然体で行こう”に落ち着く。来春までの収穫と草処理・堆肥引き込みなどから始める事である。出来るなら美しい景観には拘りたいものである。

【楽農】収穫や片付け作業を少しづつ進めている。

<ハウス> ; 大きく繁茂した食用ほおずきなどを刈り取り処分する。

Mさんから貰ったレタス苗を定植（少量）。

<畑A> ; 大根、白菜は大きく発育（収穫が期待出来そう）。玉葱の苗を購入し定植。

水菜の播種（少量）。水戸自然農の高菜を実験的に移植。

<畑B> ; 里芋、薩摩芋、菊芋の収穫。小豆の摘み取り

ニンニクの植込み追加。玉葱の苗を購入し定植。

* 椎茸が採れ始める。不在時に特大になる（次頁の写真）

食べきれず干しシイタケにしている。

【楽市】イベント交流・直売など

○グリーンジム本戸倶楽部（10月15日）

・強い雨の為作業なしで、現代農業の栽培事例記事や生産法人などのことを話す。持ち寄り野菜を食材にしてお酒を頂きながら懇談。翌日雨上がり後ニンニク追加植込み。

* 生産法人の話については別途話合う事にした。次回は19日。

* いきいき市（16日）は今回も雨の為中止。

○笠間市吟詠剣詩舞道大会（10月29日）

秋恒例の吟詠の大会が行われた。個人吟、構成吟で吟詠した。物欲にまみれた現代と漢詩の世界は今更ながらではあるが隔世感がある。現代風にアレンジなど若い世代にも受け入れられたらと思った。

○軽トラック荷台の直売会（11月6日）

（茨城のエコグループ in 石下）に参加

薩摩芋、里芋、菊芋、数種の柿を販売した。柿は完売した。芋類は残った。雨模様で、途中で中止したが、驚く程の人出で多くの人との交流を楽しめた1日となった。

○水戸自然農へ（11月7日）

大根、カブ、ニンジンなど頂いた。高菜が移植出来ると聞き掘起こし少し頂いた。葉物野菜が元気に生育している。土は間違えなく黒く肥沃になっているようだ。27日は収穫祭の予定。



<軽トラック荷台の直売会>ミルク色の空の下であったが人の出は多かった。荷台の品は既に少なくなっている。

【つぶやき=Tweet】志のある小さな農夫でありたい

○最近、農的新生活を始めた初心の事が気になる。笠間での生活にトキメキもキラメキも無くなった。先月「大地を守る会」の広告について書いたが私も初心からいつの間にかズレてしまった。家内の言うところの非日常が日常に変わっただけの事かも知れない。ただ気概の様なものが薄れてしまった様な気がする。元会社の友人から贈られて来た本などを読んで農業大事の認識も少し変わってきた様な気がする。

○TPPの論議も推進派も慎重派も自分にとって損か得かの主張しかしていない。守り議論だけで、立場を超えた論議がない。だからTPP賛成の篤志農家の主張には好感を持って聴ける。大東亜共栄圏の論になっては困るが本来なら環太平洋の人々のための論点が国益論を超えてあるべきと思う。放射能の問題も自分にとっての視点だけでなくみんなにとっての視点での論議が必要であると思う。だが、ほとんどない。要求だけの論議だけ見えて解決の論議は見えない。一億総“モンスターペアレント”になった様に見える。TPPについて云うなら一方的な主張は止めグローバルな視点とローカルな視点の短所を克服し長所を生かす個々の方策を練ることが肝要であると思うのであるが、リードする立場にある政治家の発言は余りにもプアーである。

○歴史がブームになって久しいが、利得主義に組みしない“石田三成”に関心を持っている。私の故郷は、三成が水責めして失敗した忍城(*)のあった所である。水責めに使った石田堤が残っており子供の頃から知っていた。三成は江戸時代を通し貶められ続けたが、西郷隆盛は黄門さんで馴染みの水戸光圀(家康の孫)も認めていると漢詩を残す程に、三成の生き方を認めている。三成の旗印の“大一大万大吉”の意味は「天下のもと1人が万人のために、万人が一人のために命をそそげば、人々の生は吉となり、太平の世が訪れる」(歴史街道 22年9月号)と云う。アメリカのケネディー大統領の国民に呼びかけた有名な演説と似ている。放射能やTPPを巡る問題やモンスターペアレントなどと利得主義の世相の言辞に事欠かない。こんな時代には家康に負けない三成がいて欲しい。今の政治家には三成もいないが家康さえいない。貧しい農的生活ではあるが“志のある小さな農夫”でありたいと思っている。

* “のぼうの城” 上下(小学館)があり、野村萬斎主演で映画化。

*これから紅葉が本格化します。笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



<特大の椎茸>チョットの不在で特大になっている。バター焼きは美味。特大でもいける。右が普通サイズ。

発行者；Kogure農場・小暮

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；torao-k@nifty.ne.jp

HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>